



私も京都外大図書館を応援します(3)  
**「伝統を生かした再生を！  
 リフォームアフター請負人」**

かき たに ひろし  
 垣谷 博さん



「初めて京都外大へ寄せていただいた時から、この大学は都会的な大学だというイメージを持っていました。自分が卒業した大学は、駅から商店街（通称、大学通り）が続いていた住宅の中の大学でした」という。元々の仕事は、スチール製家具や学習机などのオフィス家具のメーカーで、販売が専門であったそうである。この経験を生かし、現在は図書館用品を扱う会社で、販売、施設、修理改修などを担当している。

本学図書館は、昨年春の第3閲覧室の改修でお世話になった。壁の代わりになる透明ガラスの設置や書架の設置など、館内環境整備の現場監督をしていただいた。彼が指示して専門業者の仕事が進んでいる間に、自身は独自で「額吊るし」。業者を入れずに自ら電気ドリルを持って細長の大きな額を取り付ける。また、次の日は前日DIYで買って来た塗料をむら無く器用に塗っていく。「自分で出来ることは自分でしてみよう。私のモットーでチャレンジ」だそうである。

「以前から、この図書館にはシックな印象を持っていました。伝統を生かして改善すれば良くなります」と、彼が自認する「リフォームアフター請負人」から“施設再生術”の心得を教えていただいた。「この閲覧室がガラス張りになったことで、蛍光灯の光が美しく反射し、カウンターなどサーキュレーション・エリア全体が明るく広くなりましたね」と、来館するたびに自分が手がけた改修で、新しく変わった雰囲気を楽しんでいる。「苦労をした仕事ほど、愛着がある」とのこと。

また、「図書館内の“つき板”（木製壁）など、基本となっている色がブラウン系ですから、緑も必要なのでは」との提案で、本物と変わらないほど緻密にできた樹木やポトスなどの観葉植物を何本か揃えた。おかげで、キャンパス見学で図書館を訪れた女子高校生数人が「まあー、綺麗」と、効果は<sup>てきめん</sup>観面に表れた。

柔らかい物腰で話すが、日曜・休日には故郷へ戻り、農作業を続ける母君を助けて力仕事やトラクターの運転も。「これをやれば、スポーツは要りません。身体を動かしたあとのビールの味は最高ですよ」といいながらも、スポーツの観戦の方はサッカー（パープルサンガ・ファン）、ラグビーなどと幅広い。「学生時代の専門は経済学で、坂口安吾を読んでいました」と知的なユーモアも忘れない。現在の読書分野は、歴史物、戦国時代など動乱期の小説を好むという。

本学図書館は、この「おじさん」のご尽力に感謝をしているのである。

.....  
 図書館用品専門メーカー勤務。趣味は読書のほか、上記のスポーツ観戦。

（文・奥 正敬）